

会 議 録

1 会議名

令和5年度第2回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

・直江津まちづくり構想について（公開）

【報告事項】

・市民いこいの家の利活用について（公開）

【協議事項】

・地域活性化の方向性について（公開）

3 開催日時

令和5年5月9日（火）午後5時00分から午後6時33分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、
河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、田村雅春、
古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者4名）
- ・都市整備課： 北島副課長、杉谷係長、石田係長、飯塚主任
- ・高齢者支援課： 星野課長、橋本副課長、近藤係長、荒木主任
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、
丸山主任

8 発言の内容

【小川係長】

- ・会議の開会を宣言

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：古澤委員、増田委員に依頼

議題【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

直江津区地域協議会では、「直江津まちづくり構想について」を自主的審議事項のテーマとしていることから、今後の審議の参考とするため、上越市まちなか居住推進事業の直江津地区の取組状況等について、担当課の都市整備課から説明をしていただくこととした。説明の後、質疑応答の時間を設けたい。

【青山会長】

担当課からの説明を求める。

【都市整備課：北島副課長】

- ・挨拶

上越市では、人口減少社会、少子高齢化の中にあっても、持続可能なまちづくりをしていくために、平成29年に立地適正化計画、いわゆるコンパクトシティの計画を立てた。その実現化方策として、現在、まちなか居住推進事業を進めている。これから自主的審議をされる直江津のまちづくり構想について、参考にしていただければと思うとともに、審議が進んでいき、市の取組と連携する部分が出てくれば、連携させていただければ幸いである。これから詳細を担当から説明させていただく。

【都市整備課：杉谷係長】

資料ナンバー1の内容に補足する形で説明させていただく。

上越市の現状として、上越市のまちの形成については、高田・直江津など、城下町や交通の要所に市街地が形成され、その後人口増加、高度経済成長、車社会への移行に伴い、市街地の拡大、新たな市街地の形成もあり、市街地面積は、資料ナンバー1の図のとおり、昭和40年代に比べ2倍になっている。一方で現在の社会傾向として、急激な人口減少、少子高齢化が進行しており、広がった市街地に対し、人が減ることで、まちとしての様々な機能が低下し、住みやすい住環境の維持が困難となりつつある。上越市としても、一つのまちとしての機能維持と健全な財政運営が困難になる恐れがある。

これまでの動きとして、平成29年3月に、将来の人口規模にみあった都市構造に再編すべく、いわゆるコンパクトシティを目指した立地適正化計画を作成し、人口減少が著しい町内を含む、高田と直江津の中心区域を、誘導重点区域として指定し、居住や暮らしに必要な施設等を維持誘導を促すことで、人口が減少する中でも維持可能な暮らしやすいまちを目指すこととした。

この計画実現に向けた具体的な取組の一つとして、まちなか居住推進事業の事業化を行い、この直江津区においても、令和元年から2年において、現状や課題、将来像や施策について庁内で検討を行い、まちづくりの方向性として、市街地中心部で都市機能施設などを含む良好な住環境の整備、空き家、空き地の活用、歴史的なまち並みの保全など、まちの魅力を相乗的に向上させることで、これからも住み続けたい、新たに住みたい、また訪れたいと思う人が自然に集まるまちづくりに取り組むこととした。

これまでの町内会との取組状況については、令和3年度はまちなかの課題を住民一人一人が自分事としてとらえ、何ができるかを考え、将来を担う子供や孫のために必要なまちづくりだと認識してもらうべく、市としては、地元との信頼関係の構築を図りながら、直江津区の誘導重点区域内の15町内会と取組方針、進め方の共有を図った。この中でも、店舗併用住宅が混在している、あけぼの地区、間口が狭く、奥行きが長い家屋が連担する天王町と福永町の3地区においては、協働によるまちづくりを進める地域の機運が高いことと、居住形態が多様であり、様々なモデル事業が展開できる可能性があることから、モデル地区に認定させていただいた。令和4年度に、モデル地区3町内でワークショップを行ったところ、積極的な発言が多く議論が白熱し、ある町内では、このワークショップをきっかけに、今後は町内でできることは町内で考え、実行に移したいとの言葉をいただき、地域住民と行政関係団体等による協働によるまちづくりを目指す、協働事業の手応えを感じたところである。

今後について、令和5年度は、近々直江津区の誘導重点区域内の15町内及びモデル地区に対し、モデル事業の制度設計を行った。令和5年度、6年度の実際の制度活用実績を踏まえ、施策の効果の検証や、必要に応じて制度の見直しを行い、正式事業として、まちなか居住推進地区へ波及していくべく、関係町内とまちなか全体の機運を高めていく必要があるため、市としても、これまで培ってきた地元との良好な関係を継続し、抱えている課題を解決するためのサポートを行っていく。以上がこれまでの経過及び展望である。

資料は他に、まちなか居住推進事業ニュースレターを配布させていただいた。こちらは、令和4年度に行ったワークショップの内容となっている。後ほどご覧いただきたい。

【青山会長】

説明について、意見・質問等を求める。

【古澤委員】

発足してから様々な議論を、町内会等でやってきた。3町内のワークショップで、ある程度方向性が見えたのではないかと考えている。商店街については、当初の予想では、下は商店街、二階は事務所・住宅等、また、住宅では、その土地に駐車場がない場合、駐車場等を提供しながら住みよいまちを作るというようなことを言われていたが、今のところそういった希望は出ているのか。予算や補助的なものを明確にして、どのような条件の方が対象になるのか。

【都市整備課：杉谷係長】

今、制度設計を行っており、5月1日に要綱が固まったところである。これから地域に制度の説明をさせていただきながら、あわせてチラシを関係町内会に全戸配布したいと考えている。大まかに言うと、住宅兼店舗等の支援では、ワークショップの中で直江津区の特徴として、お祭り等があるので子育ての世帯を増やし、にぎわいを求めていきたいという、高田地区とは違う、特化した制度設計になっている。お金の方はある程度ご用意させていただいているが、まだ制度を周知していない状態なので、手挙げのところは、今のところまだそれほどないという状態である。これから周知を図りながら、手挙げをお願いしていくような形になると思う。

【古澤委員】

取組の中で、概ね何件ぐらいを目標としているのか。それがないと、お金を借りる人も頭打ちになる等問題が出てくるので、市としては、どのぐらいの店舗、住宅等に取り組んでほしいのか。

【都市整備課：杉谷係長】

今日は具体的な予算の内訳等はないが、制度によって補助率が違い、制度ごとに金額の設計をしている。令和5年度は直江津区で約600万の予算を確保している。

【古澤委員】

具体的な数字等を示さないと、応募状況にも左右されるので、きちんと示していけば興味を持ってもらえるのではないかと。

【磯田副会長】

福永町、あけぼの町、天王町で先行的にモデル地区として住民と意見交換をし、事業化に向けた動きをしてきた。一方、直江津のまちなか居住の誘導地区は19町内あると話があったが、3月議会の安田議員の一般質問に対する市長の答弁の中では、まずはその3町内だけと理解したのだが、正しいのかどうか。また、5月にできる制度設計は、令和5年度版の上越市まちなか居住推進事業補助金（高田地区）と同等の事業内容、或いは直江津区特別の事業を入れたものがあるのか。それが3町内だけにしか適用されないものなのか聞きたい。

【都市整備課：杉谷係長】

まちなか居住推進事業（高田地区）は、推進地区として申請し、認定されれば適用されるという形で、直江津地区も同様である。ただし、高田区も直江津区も、モデル事業、モデル地区ということで、ある程度皆さんに見せる地区を選定させていただき、モデル地区は申請なしで、適用できる形で現在運用させていただいている。高田地区は、モデル地区の特別な扱いが令和4年度と5年度。直江津地区は令和5年度と6年度。それがモデル地区のモデル事業ということで、制度の運用をさせていただく。それを見た中で、直江津では15町内で推進地区になりたい町内があれば、そこで手を挙げていただいて、その制度を使っただけという形になる。モデル地区は、準備期間や練習のような形とさせていただきたい。

【磯田副会長】

それぞれのメニューを見た限りでは、モデル地区として、各町内がまとまって申請しなければ受けられないような内容の補助ではないと思う。例えば空き店舗があったら、その空き店舗対策の中で、この前にあれば、他のところでも使えるとか、大きくエリア開発するようなことを除いては、もう少し幅広い人たちに施策を届けていかないと、普及していくのは難しいと思う。将来的なビジョンとして、モデル地区を3地区からさらに増やしていくことを、今年度都市整備課では考えているのか。

【都市整備課：北島副課長】

直江津地区については19町内ではなく、15町内。そのうち3町内で、今年と来年モデル地区として取組を進め、その姿を皆さんに見ていただきながら、僕たちもこういうまちを作っていきたいということを他の町内にも見ていただいて、手挙げをしていただく形になる。私たちとしては、単なる支援事業ということでは捉えておらず、それぞ

れの町内が、今生きている私たち自分自身のことではなく、将来、自分の子供、孫、ひ孫のことも考えたときに、どういうまちを残していきたいか、どういうまちを残せば、みんな幸せに暮らせるのかということ、皆さんで、町内会ごとに考えていただいて、住民の皆さんに実行いただく。それに対して我々行政しかできないことは、住民の皆さんと一緒にやっていくという形で、協働のまちづくりを考えている。まずはしっかり皆さんに考えていただいた中で、それに少し足りない部分を行政が支援する形で考えているので、万遍なく支援だけを拡大していくような考え方ではなくて、自分たちでしっかり考えて、こういうまちを作っていくということを、こちらに届けていただいて、それに対して、今後支援を展開していくという考え方である。

【磯田副会長】

また別の機会に意見交換をさせていただきたい。

【増田委員】

これを進める主体は町内会と聞こえたが、町内か町内会長にリーダーシップをとってもらい町内会として市に届けを出すという話だが、町内会長の皆さんは、そのことは十分承知しているのか。道筋も含めて心配である。また、去年まで高田でやってきたが、成果がどうだったのか教えてほしい。

【都市整備課：北島副課長】

15町内の町内会長の皆様方にはこれまでお集まりいただき、当事業の趣旨を十分ご説明させていただきモデル地区を3つに絞った。そのモデル地区の皆様は、この取組内容をよく把握されながら、自分たちが将来的にどういうまちにしていきたいのかということ、去年1年間かけて議論を続けてきた。その結果、ニュースレター裏面のような意見が出てきた。このような取組をやっていくと、まちなか居住も進んでいき、自分たちの未来のために、子供たちの未来のためによい町を残せるのではないかと出てきたところで、町内会の力と我々行政の力をかけ合わせて、協働で実施していくことで、取組をさらに加速させていく形で考えている。町内会長の皆様、ワークショップに参加していただいた住民の皆様には、この趣旨はご理解いただいていると認識している。高田では昨年と同じ取組をすでに進めており、モデル事業としては9件の取組を町の皆さんに見ていただくことで、モデル地区以外の町内にも波及させたい。すでに、2町内からこの取組に参加したいと、手を挙げていただいている。

【磯田副会長】

直江津区の地域協議会の中では、自主的審議の中で、いろいろなテーマをどう取り上げていくかとか、どう深掘りしていけばよいかという話が進んでいる。空き家対策や、店舗対策、或いはまちなか居住について、全体の中だけでなく個別でも議論をしている。協議会の中での自主的審議と、市の施策の動き方、或いは、町内の今の取組のロードマップと整合をつけて検討したり、独自予算についても話をする場面もあると思うが、その時に、どのように動いていくべきか、できるだけ多くの市の情報をいただきたい。また、各町内の動きについて、ニュースレターに具体的な取組例が書いてあり、令和5年度以降は具体的な取組を実行と書いてあるが、実行していくときに、町内会だけで考えられるのか、決めていいのかという問題もあると思う。今、町内会と行政という話があったが、そこに地域協議会がコミットすることはできるのか。或いはオブザーバー的に参加していくことができるのか。そういうことを考えたことはあるのか。地域協議会の立ち位置と、皆さん方が進める町内会との動きをどのように連動させるか検討したことはあるか。

【都市整備課：北島副課長】

今回我々が取り組んでいるエリアは、直江津区をエリアとして見たときには、ごく一部の範囲。我々の範囲は立地適正化計画の誘導重点区域という範囲、全15町内の範囲になるが、連携できる部分があれば当然させていただきたいと思っている。直江津区全体のまちづくりを考えた時に、15町内がどのような位置付けになるかが見えてくると、今後の動き方も見えてくると思っている。私たちは15町内だけで絶対的にやっていくということは思っておらず、直江津のまち全体を見たときの連携が必要と思っている。

【古澤委員】

総合的にもう少し詰めた話ができればいいと思う。それが固まっていないので、また固まったときに、事例や結果等話していただく中から、話を進めていいのではと思った。まだこれから着手する段階にあるので、それが決まってから話を聞いたらどうか。

【青山会長】

古澤委員の意見についてどうか。

【都市整備課：北島副課長】

今後、15町内すべての会長さんにお集まりいただき、昨年の取組の報告をする予定としている。それ以降の動きについても、地域協議会の皆さんの方から取組状況について要望があれば、情報を提供させていただきながら、また皆さんの審議の進捗をお聞か

せいただきながら、整合をとっていきたいと思っている。

【青山会長】

現在3町内で進んでいるが、他の町内はいつ頃になるのか。

【都市整備課：北島副課長】

3町内の取組は、令和5年度、6年度となる。本来であれば、15町内一斉に始められればよいのだが難しく、あくまでモデルとして見ていただきたい。効果が散らばって見えるよりは、一定の範囲の中で、モデルとして見せられるほうが効果的ではないかと考えている。一気に広げるのではなく、2年間の取組を他の町内会にも見ていただいて、これであればやっていきたいという町内にどんどん手を挙げていただきたいと考えている。

【青山会長】

他の町内は何年後になるのか。5年後、6年後になるのではないか。

【都市整備課：北島副課長】

まずこの3町内で取組を行い、他の町内は、最短で令和7年からになる。

【田村委員】

高田の中心街でやっており、それを直江津の中心街でもやるとのことだが、高田との大きな違いは何か。人口減少率も含めて。高田の実施地区は幾つあるのか。

【都市整備課：北島副課長】

高田は25町内中の5つの町内会でモデル地区としてやっている。

【田村委員】

高田の中心街はみんな個人の土地と思われるが、直江津は全然違う。それを知っているか。この大きな違いが今の中心街の衰退を招き、郊外へ行っているのではないかと私は認識していると同時に、雁木通りが直江津は綺麗ではない。安心して歩けるようなまちづくりになっていない。そういうこともその3町内の中でやってくれるのかどうか。住みよいまちづくりをするのであれば、その辺の展望はどうなっているか。

【都市整備課：北島副課長】

直江津の特徴としては、一つの宅地の敷地がものすごく小さいところが多い。20坪ととても小さいところもある。今の車社会においては、家を建ててさらに車を収めるとなると20坪では足りない。そうすると、少し離れた郊外に宅地を求めるケースもあると思う。高田については雁木・町家が特徴的と思うが、ウナギの寝床と呼ばれる造りが、

今の時代では居住としてマッチしない部分もある。この辺りは地区ごとにそれぞれ課題が違うので、みんなでワークショップをやりながら、なぜこれだけ人間が少なくなったのか、これから自分たちが住み続けるにはどうしたらよいだろうか。また、例えば進学で、自分のお子さんが東京へ行ったが、どうしたら戻ってきてくれるのか、他から新たに住んでもらうにはどの部分を解決すれば住んでもらえるのか等を、皆さんと一緒に知恵を出す作業になっていく。これをやり、自分たちは将来のために、こういうまちを残していこうというふうに、物事を考え計画していく。そこに、実行に向けて、町内会でできること、行政でできることをかけ合わせて協働でやっていきたいと思います、課題についても、皆で検証して知恵を出しましょう、という形の事業になっている。よって委員が言われた部分についても、みんなの議論の中に出てくる形である。

【田村委員】

600万円でどんなことができるのか。

【都市整備課：北島副課長】

直江津の特徴として、一つあたりの宅地がすごく狭い。それを2つつなげて使えば家を建てて車を収められるとか、3つつなげれば郊外に出て行かなくても、直江津に住み続けられる。そのようなことを解決するための支援をしていくことが例として挙げられる。

【青山会長】

他になければ、この件はこれで終わりとする。

— 都市整備課 退室 —

次に、【報告事項】市民いこいの家の利活用について、担当課へ説明を求める。

【高齢者支援課：星野課長】

- ・挨拶
- ・資料No.2「市民いこいの家の利活用について」に基づき説明

今日は今後のスケジュール等の説明をさせていただき、次回以降、具体的な資料を整理し、市としての考え方も提示させていただきながら、皆さんからご意見をいただきたいと思っている。

【青山会長】

説明に対し、意見・質問等を求める。

【田村委員】

講座数は、幾つか。前回の話では70か60と記憶している。

【高齢者支援課：星野課長】

春日山荘の現在の講座、30のうち23講座、約400人が市民いこいの家に移行するという予定である。それ以外の講座は、受講生の皆さんの意見も踏まえながら、高田西趣味の家への移行や、体操等は、体育館で実施している。

【田村委員】

23の講座は丸一日ではなく1時間単位、2時間単位であると思う。果たして無料でお使いいただく共有スペースを作れるのか。そういう意味で、どのような工夫をするのか。一切届け出せずに自由に無料スペースを使えるのかお聞きしたい。

【高齢者支援課：星野課長】

無料でお使いいただける共有スペースについては、開館時間中は、事前に申込みの必要はなく使っていただけるように考えている。講座をやっている、開館時間中であれば、自由に使っていただけるスペースを想定している。

【田村委員】

例えば、1週間後に会議をやりたいという場合、講座の時間帯はほとんど開いてないのか。小部屋がたくさんあったが、あのように使えるスペースは、幾つの部屋数になるのか。

【高齢者支援課：星野課長】

基本的には、高齢者の趣味活動が中心の利用になるので、貸館部分の部屋の利用はその隙間で使っていただくか、また、夜開館するのか、或いは日曜日開館するのか、周辺の施設の利用状況や空き状況等を確認し、皆さんのご意見もお聞きしながら、決めていきたいと思っている。

【古澤委員】

陶芸の関係で、浴室の代わりに陶芸用スペースを作るということだが、どのような形でやっていくのか、例えば陶芸教室をやるのか、任意団体にお貸しするのか等、使い方を次回教えていただきたい。

【青山会長】

他にないか。

【増田委員】

改修工事は6月に着工ということで、改修のための設計図を今作っていると思うが、

利用者の声を反映したような改修にしてほしい。そのためには利用者の声を聞くことも必要であるし、私たちにも改修案を見せていただければ、大変ありがたいと思う。

【青山会長】

このスケジュールからすると、もうできているのではないか。

【高齢者支援課：星野課長】

改修内容については、以前に図面をお示しさせていただいたが、基本的に改修するのは浴室部分を陶芸用の作業スペースに、脱衣場の辺りを水を扱う創作室にする。それ以外は基本的に現状のままで、改修はその部分のみを予定しているので、意見をいただいて何かするのは難しい。空いている部分をどう利活用いただくかということについて、ご意見をいただきたいと考えている。

【青山会長】

他になれば、この件についてはこれで終わりとする。

— 高齢者支援課 退室 —

次に、【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.3「住民の皆さんとの意見交換会の実施について（概要）」に基づき説明
本日は意見交換の進め方についてご協議いただきたい。

【青山会長】

現在、応募者は何名か。

【小川係長】

現時点で6人である。

【青山会長】

6人では少ない。グループ分けができないのではないか。皆さんからも、町内や、自分の所属している会を通じて、積極的な参加を募っていただきたい。

【古澤委員】

町内会長協議会が2町内あり、欠席の連絡をもらっているのは2町内である。最低でも15、6人は、出席する予定である。

【青山会長】

進め方について意見はないか。

【増田委員】

何のためにやるのかが、非常に重要である。地域活性化の方向性は、このまちを良くするために、地域独自予算を念頭に置きながら、話を進めていくようにしたほうがよい。地域の活性化と言っても、ほとんどの人がピンとこないと思う。私たちも地域の活性化のためにと言われて、意見をもらってもどうすることもできない。しっかりと方向性を定めて説明する必要があるのではないか。単なる思いつきやアイデアではなく、課題についてしっかり考えながら、意見を出してもらうことが必要だと思う。

【青山会長】

意見交換のような場では、要望や困りごとが多く、進んでいる方向や落としどころがわからない。協議員の皆さんからは、方向性の調整をしながら、進行をお願いしたい。進め方についてはよいか。

【古澤委員】

令和3年3月15日に、直江津をつなぐまちづくりを話し合う会をやったが、また同じような繰返しになると思う。資料No.1も直江津のまちづくりの話であり、的を絞ったほうがよいと思う。

【田中美佳副会長】

話し合いがいつも一緒の内容になってしまい、今回も皆さんから意見を広くもらう形では、また同じになってしまうという話だが、ではどういう方向で進めていけば、よい方向にいけるのか。今までそれができなかったから、繰り返しているのだと思う。しかし、今回は地域独自の予算という目標があるので、それに向かっていくように来られた方たちにも説明をし、理解してもらって、具体的に話していかないと、また同じことになると思う。はじめにテーマを皆さんに説明し、本当の問題はどれか、その中から、実際に独自予算になるためには、どのような方向で、どんな課題があるのかと、わかりやすく話しを持って行くほうがよいと思う。不満や思っていることを聞き始めると、思いのたけをたくさん話されるので、本当にまとまらなくなる。皆さんの中から、良い方向に向かう意見があればお聞きしたい。

【佐藤所長】

地域独自の予算について、事務局からも説明させていただき予定としている。田中副会長の言われた方向性で、事務局も考えていきたいと思っている。しかし、これをやれば必ず取れるとは、はっきりとは言えないので、ご理解をいただきながら、この意見交換会を円滑に進めていければと思っている。

【増田委員】

今までの経緯では、評論家が多い。評論家ではなく、具体的にどうすれば実現できるのかという進め方をしないと、話だけで終わってしまう。当日の司会進行役は、誰がやるのか、場合によってはくじ引きで皆さんがやることになるかもしれない。司会進行役がいかに大切で、その人がしっかりと方向性を示してあげないと、評論家の意見だけで終わってしまうことになるので、自分が司会役になったときの進め方で、考えていただければよいと思う。地域活性化の方向性は、市から出てきた言葉であり、地域の皆さんにとっては全く関係のないことである。私達にとっても地域活性化の方向性よりも、直江津のまちをどうしたらよいのかを、住民の皆さんと一緒に考えていくというのが今回の目的だと思う。この目的を踏まえて、進行役になられた方は進めてほしいと思う。進行役が方向がぶれた時には、委員の皆さんが修正をかけて、1時間という時間の中で一定の着地点を目指す必要があると思う。

【田村委員】

今回の着地点は、予算化をどうやって目指すのかだと思う。今までも課題ばかり見えてしまい、いかにして予算の獲得を目指すかで議論していかないといけない。

【青山会長】

大上段に構えてしまうと、何を話しているかわからなくなってしまう。その前に、直江津の壁はなんなのか。そういったものを出して、そこから解決策を、そのためにはどうしたらよいのかというものを具体的に出していかないと、話が進んでいかないと。また、活性化の方向性については、活性化とは何かということで、意図と違うような答えが出てくるのではないかと考えている。さらに、人口減少、Uターン関係、空き家の関係等、いろいろな課題があり、それを共有化しないと話が進まないと思うので、その辺も考えながら、話しの構築を図っていけばよいのではないかと。思う。

【田中実委員】

昨年7月頃に、今後の自主的審議のテーマについて各委員から資料を提出したと思うが、いまだに審議されていない。また、ごみの関係で提案させていただいたが、次々と協議事項が出てきており、上越市の第7次総合計画の56ページに書いてある、直江津のまちづくりの拠点の考え方からかけ離れてきているような思いがしている。市の地域独自の予算についても、直江津地区については、歴史的な機能は存在しているが、これといった特産品がなく、いろいろ計画しても、マッチングが難しいと思っている。今後

直江津のまちづくり、審議テーマ等、ごみに関する協議をするかどうかお聞きしたい。

【佐藤所長】

直江津地区の協議事項は大変多く、順番が入れ違いになることがある。前回提案いただいた件は、担当課と調整中で、次回説明させていただく予定である。審議テーマの資料については、再確認したい。

【田中実委員】

1年以上経過している。協議事項は次から次へと出てくるため、次は何を審議したらよいか、わからなくなってしまう。直江津のまちづくりに関しても、テーマを決めて審議していただきたい。委員がこれだけの資料を書いているのに、利活用されないことは不信感につながる気がする。

【増田委員】

田中委員の意見は、審議をするのは事務局の役割のようなニュアンスの発言である。どのように審議してどのように進めるのかは、地域協議会の役割であり、事務局は進め方についていろいろとアドバイスする立場である。心配されているように、いろいろな意見が出てきており、取捨選択しなければいけない場面があるかもしれないが、お互いに割り切るということも必要ではないかと思う。

【田村委員】

まっさらな立場で住民の意見を聞いたほうがよいのではないかという前回の会長の意見で、私は納得した。田中委員の話は、前回の話を蒸し返している感じがする。

【田中実委員】

会議に3年程出ていて、私が聞いてなければ皆さんに申し訳ないと思うが、現実に審議事項の提案があるので、しっかりと審議してもらわないと、おかしい話になってくると思う。

【増田委員】

田村委員が言われたように市民の皆さんと意見交換する中で、そういう話題が出てくるかもしれないので、それを整理しながら進めていくということで、前回お話しした。皆さん勘違いをしているのではないか。テーマを設けて一生懸命審議するのが地域協議会の役割だと思っている。テーマは市民の皆さんと話をして、重要度の高いものからどんどん上がってくる。その中から取捨選択をしていくことが必要である。これを決めて、一つをひたすら進めるのは、地域協議会としては、固定化してしまうので、流動的に、

その時の課題を的確に捉えてしっかりと話をしていく。結果的に、後回しになるものもあるかもしれないし、審議未了の部分があるかもしれないが、そこはお互いに割り切って、よい直江津のまちを作るための地域協議会はどうしたらよいのかという観点で物を考えていきたいと思いますということが私の提案である。

【青山会長】

これまで提案した話は、皆同じ直江津に住んでいるので、次回の27日の意見交換にも出てくると思う。それを整理しながら、会を進めていくということではないか。ないがしろにはしていない。残っている。

【古澤委員】

27日の説明のやり方をしっかり決めないと、当日になって慌てると思う。きちんと固めていかないといけないと思うので、決めていただきたい。

【水島委員】

町内連絡協議会が22町内あり、欠席が2町内だけとなると、20人ぐらいの方がおいでになる。町内会長は、いろいろな問題を抱えながら出て来られ、いろいろな意見が出るのは当然である。それを集約するのが司会進行の役目であり、どのように進めるかが決まっていないと、まとまらない状況になると思う。増田委員が言われた、このまちをどうやったらよくできるのか、どのようにしていくのかという方向性で進めればよいのではないかと思う。1時間で集約しなければいけないので、この1点に絞ってはどうか。

【田中美佳副会長】

直江津のまちをどうしたらよいかという意見を出していただいた中から、最後のまとめはどうしたらよいか。いろいろな問題があるけれども、着地点として、地域独自の予算に向けてどれがよいかという形で皆さんにまとめていただくということでよいか。

【古澤委員】

地域独自の予算について理解してない町内会長もいらっしゃる。いきなり地域独自の予算と言うと、更にわからなくなるのではないか。

【磯田副会長】

先に申し上げるが、当日は個人的な理由で欠席の可能性があるので、進行は難しいと思われる。田中副会長の言われた独自予算の選定までは、市民の人たちに求めないほうがよいと思う。市民の人たちから出てきた意見を、一度この場で整理をして、ヒエラル

キーをつける。または、可能性があるかないか、誰が実行していくのか、どのようなバックアップ体制をとればできるのか、独自予算の取組の1番と2番にどう入るのか等、この中で議論する必要があると思う。2時間しかない意見交換会の中で、話す時間は1時間である。だから意見を聞くということに専念したほうがよいと思う。ぼんやりとした話をするよりは、きちんとした趣旨で、バックボーンというか令和6年度の独自予算というものがある中で、課題解決のためにどのような事業をしていくのかを、少し意識してもらいながら話をしていく方向に導いてもらえればと思う。

【古澤委員】

そう簡単にはできない話だ。私も意識しながらと言われてもなかなかできない。そのような項目は、させる方向に持っていかないと話は進まない。

【磯田副会長】

今後のこの協議会の議論のやり方も考えないといけないのではないかと、個人的には思っている。この全体会の中で喧々諤々とやっている、だんだんと迷路に迷い込んでいってしまうところもある。例えば、いろいろな意見が出てきて、それを有志の人や部会のような形にして少し整理をつけていく。或いは方向性の案を考えるような部会を作って、それを全体会に上げる等、そのような議論の進め方の形を考えないと、今までの4年間と前の期も含め、ずっと同じ議論をこの場でやっていて、それがなかなか深掘りできていかない状況があるので、それをしっかりとロードマップに載せて、どうしていったらよいのかということ動かしていく協議会にしていかないと難しいと思っている。どのようなやり方がよいのかは、意見交換の後の協議会の中で議論していけばよいのではないかと。秋までには、令和6年度予算に向けての動きを協議会としてしなくてはならないので、意見交換の後に、時間をその議題だけを取り上げて、じっくり議論したほうがよいのではと思う。

【増田委員】

地域独自の予算とは何かということ、しっかりと理解してもらわないと話が進まない。今まで私たちに示してもらった資料を、もっと噛み砕いて示してもらいたい。地域独自の予算を提案することができるということをメッセージとして発信し、では、どのようにするのか。参考として、令和5年度の直江津区の地域独自予算に上がっている事業を、見てもらうのがよいかもしれない。すべての事業がよいわけではなく、なぜこの事業が地域独自予算に上がっているのかというものも、ないわけではない。そこも含め

て、具体的にイメージを持ってもらうことが必要である。説明が10分しかないが、説明した後、質問が出てくると思う。質問だけで15分くらいかかると思うので、そのような覚悟で説明をお願いしたい。

【青山会長】

いろいろあると思うが、27日に向けて皆さんのお力をお借りしたい。難しい問題ではあるが、前へ進めていくという考えでお願いしたい。

その他について、事務局より説明を求める。

【小川係長】

市が取り組む「地域自治推進プロジェクト」において、地域における現状把握等のため、後日、地域協議会委員の皆様へ調査票をお送りする予定なので、ご協力をお願いしたい。

- ・次回協議会：6月13日（火）午後6時30分から

【増田委員】

磯田副会長がロードマップの話をされたが、令和6年度の予算に向けて動くためには、月1回では間に合わない。よく相談していただき必要に応じて開催するようにお願いしたい。早めに仕掛けていかないと、最後に時間がなくなり慌ててはいけないと思う。

【青山会長】

- ・閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。